

平成26年度柏崎市原子力防災訓練について(概要報告)

防災・原子力課

今年度の原子力防災訓練は、前回、平成25年3月実施した訓練でいただいた御意見などを踏まえ、規模は小さいながらもテーマを絞り基本的な訓練の積み上げとして臨みました。

また、12月18日(木)には高浜地区で事後検討会を実施し、いただいた御意見などを踏まえ、今後の訓練に生かしてまいりたいと考えております。

- 1 **日 時** 平成26年11月11日(火) 午前8時30分から午後4時30分
- 2 **実施場所** 高浜地区、特別養護老人ホームなごみ荘、柏崎市役所、柏崎刈羽原子力防災センターなど
- 3 **訓練参加** 高浜地区125名(消防団員含む)、特養なごみ荘約130名(利用者、職員)
- 4 **重点項目**
 - ①多用な手段を用いた事故情報の提供
 - ②確実な情報伝達及びその収受
 - ③要配慮者の避難支援(地域共助による避難及び避難支援)
 - ④国、県、市、事業者の円滑な情報連携とその共有

5 訓練項目

○ 市対策本部に関するもの

- ・災害対策本部の設置運営及び防災関係機関との情報共有とその対策の意思決定
- ・派遣職員が行うべき任務の確認と地域の防災関係者との情報共有及び収受
- ・派遣職員が現地で必要とされる情報を市本部へ要請し、バス車中で情報提供
- ・避難経路所における住民基本台帳を使用した住民受付
- ・防災行政無線、緊急速報メール、BSNデータ放送、消防関係車両など多用な情報手段を用いた住民広報の実施
- ・市本部機能班の活動内容の確認(避難車両の要請、なごみ荘及び法人本部との連絡)など

○ 住民等に関するもの

- ・複合災害を想定した自主防災会活動及び避難行動の確認
- ・自家用車(レンタカー)による相乗り及びバスによる避難の実施
- ・IP無線機を活用した通信訓練及び消防団による現地広報活動
- ・自主防災会と消防団が連携した要配慮者の避難支援の実施
- ・避難訓練の負担軽減を考慮し移動距離を少なくした避難経路所の設定
- ・放射線防護設備を整えた社会福祉施設(特養なごみ荘)の屋内退避等の訓練の実施

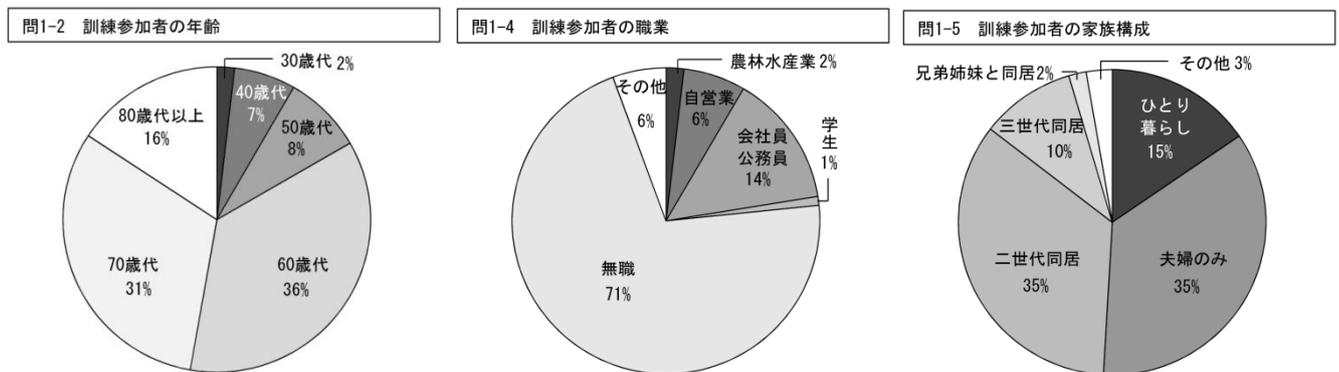
平成26年度柏崎市原子力防災訓練住民アンケート結果

防災・原子力課

訓練当日に実施したアンケートについて、住民避難訓練に参加された110名から回答をいただきました。結果報告とともに、行政としての課題なども併せて考察いたしました。

設問 1 原子力訓練参加時点の状況（参加者の構成等）

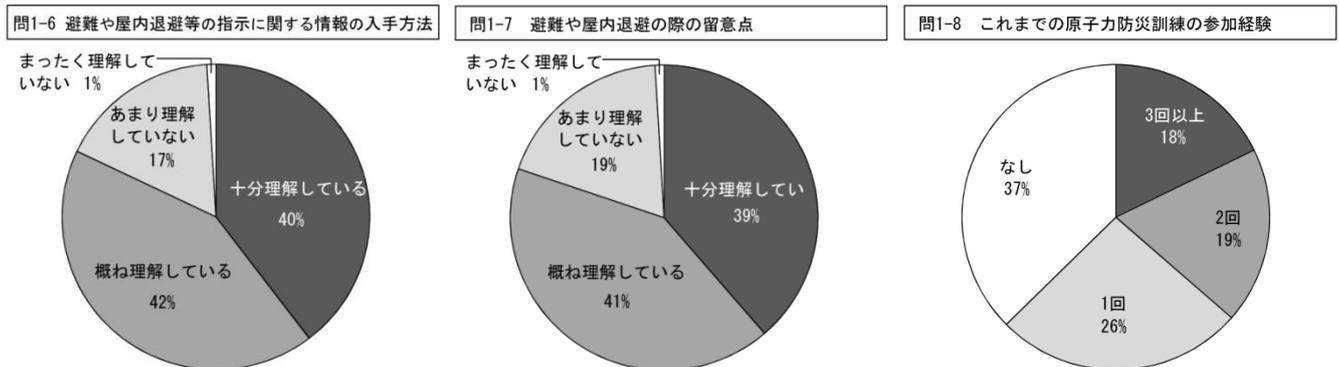
平日の訓練であったため、自宅に残っている方達を中心に参加者数は少なく、年齢層も高くなっています。しかしながら、いつも家族がいるわけではなく、平日なりの意義のある訓練もできるものとも考えられます。ですが、参加者の年齢層の割合は、昨年度実施(土曜日)した訓練とあまり大差がありませんでした。



設問 1 原子力訓練参加時点の状況（原子力防災の知識等）

原子力災害時における日頃の知識(情報の入手方法や避難、屋内退避の際の留意点)などについてお訊ねしました。「十分理解」、「概ね理解」しているという回答を合わせるといずれも8割です。

高浜地区は、地勢上、津波や孤立の恐れもある事や発電所から近いということもあり、日頃から熱心に防災活動に取り組まれていることの裏付けかと思われまます。



設問2 情報伝達 ※入手手段は複数回答

どの手段で情報を入手したかについてお訊ねしたところ、前回訓練同様に「防災行政無線」が一番多くの方(約5割)が挙げています。また、「地域の声かけ」による入手が約4割で、今回の訓練での自主防災会による住民の安否確認活動の結果の表れであったと思います。

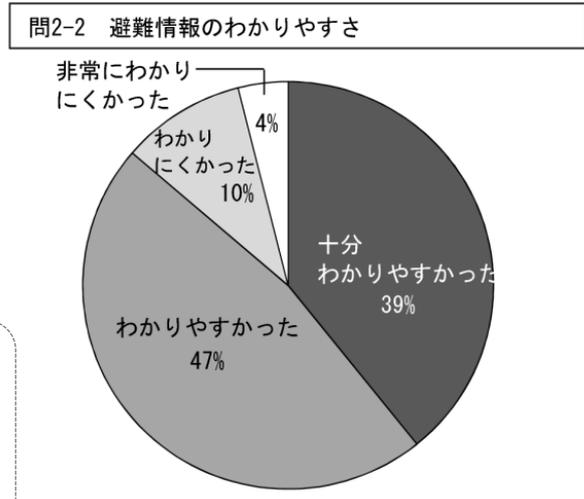
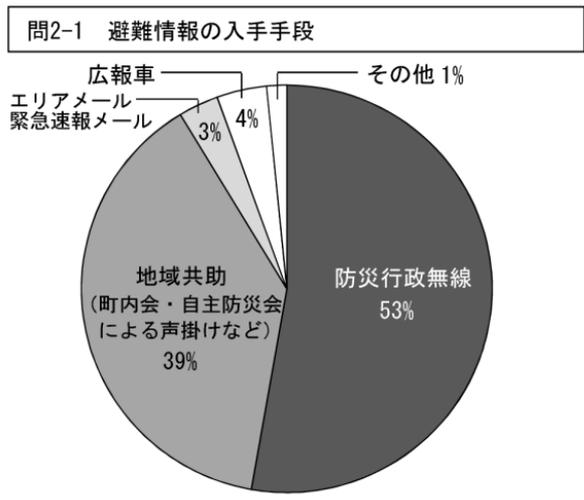
また、情報のわかりやすさについてお訊ねしたところ「十分わかりやすかった」、「わかりやすかった」を合わせますと9割弱の回答でした。対して1割強の方が「わかりにくかった」という回答です。

その主な理由として「長文である」、「避難のポイントがハッキリとしなかった」、「屋内で消防団広報が聞きづらかった」などの御意見でした。

市では、前回訓練の反省としてポイントを絞った広報文に努めましたが、消防団との役割分担を含め、確実にわかりやすい広報について、日々検討していかなければならないものと考えます。

「わかりにくい」「非常にわかりにくい」理由

- ・防災行政無線はわかりやすかったが、消防団広報は走りながらで屋内にいると聞き取りづらかった。避難指示は防災行政無線で明確に実施すべき。
- ・避難のポイントがハッキリしていない。
- ・広報文が長すぎる。緊急時のアナウンスの仕方(とぎれとぎれのアナウンスでは要点が曖昧になる) など

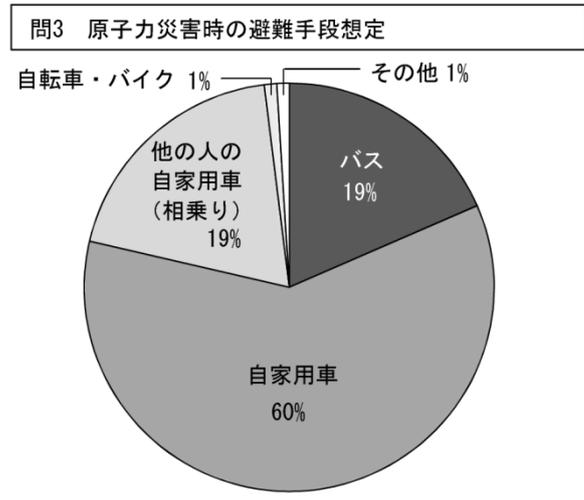


設問3 避難手段

広域避難計画では、まずは自家用車での避難。しかもできるだけ相乗りでの避難をお願いしています。今回の訓練では、自家用車を想定したレンタカーによる相乗り避難を実施しました。

アンケート結果では、「自家用車の相乗り避難」を合わせると、約8割の方が自家用車を避難手段として考えています。

逆を返せば、家族が車を使用していて自宅等に車がない場合もあり、いかに早くに自宅に戻っていただくか、早めの情報提供を心掛けなければなりません。



設問4 放射線防護施設がある場合の行動

即時避難区域(PAZ)の基本的な防護措置は避難。
避難準備区域(UPZ)は自宅等での屋内退避です。

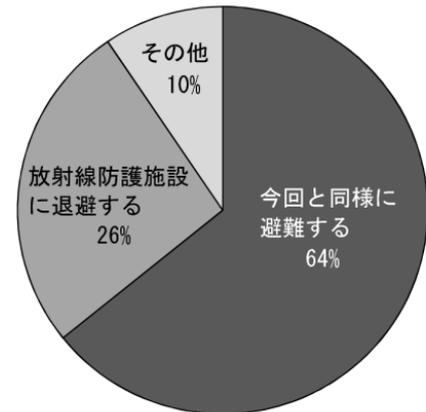
アンケート結果でも6割強の方が「今回と同様に避難する」と正しい認識をお持ちです。

しかし、避難行動で健康リスクを高める場合は、屋内に留まらざるを得ないことも承知しています。アンケートでは4分の1の方が放射線防護設備の整った施設に退避すると回答しました。

今後、高浜コミセンは放射線防護設備を整えますが、屋内退避するにも限界(3日間)があり、最終的には当該施設から避難(移動)しなければなりません。従って放射線防護施設への退避が全てではなく、介添えなどで避難できる方は、地域の皆さまのお力添えをいただく中で極力避難していただきたいものと考えています。また、(発電所の)近くで屋内退避できるはずはないとか家に残るといふ御意見もありました。

放射線防護の設備をどのようにして運用するのか、放射線防護施設での退避から避難にどう繋げていくのかなどの課題に対し、真摯に取り組む必要があるものと考えます。

問4 放射線防護施設がある場合の行動想定



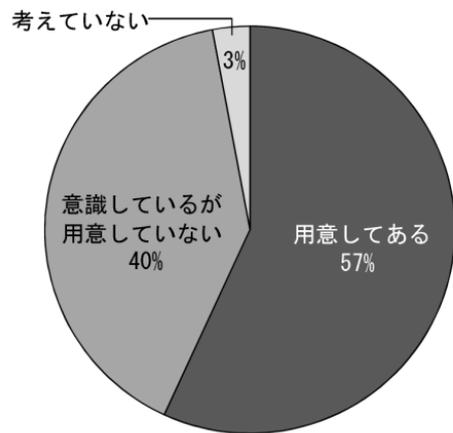
設問5 その他(日ごろの備え、要配慮者支援)

○非常用持ち出しの備え

「用意してある」が6割弱、「用意していない」、「考えていない」が4割強で比較的近い値でした。

中越大地震、中越沖地震、そして東日本大震災など災害を目の当たりにし、原発が隣接し、PAZであっても、未だ4割の方が用意をされていないという結果でした。機会をとらえ、行政、自主防災会ともに住民に対し意識啓発していく必要があるものと考えます。

問5-1 非常用持出品の備え

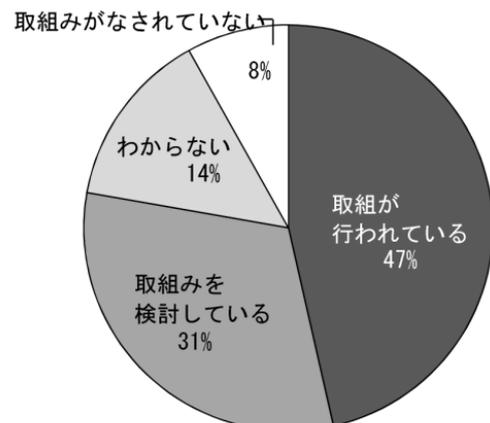


○地区、町内会等における要配慮者支援の取り組み

「取り組みが行われている」、「検討している」の回答を合わせると約8割でした。

自主防災会活動の地道な取り組みが、地域住民にこのような意識の啓発に繋がっているものと思います。敬意を払いたいと思います。他の地域でも、住民がこのような意識を持てるようにしていきたいものです。

問5-2 地区や町内会等における要配慮者支援の取り組み



設問6 訓練全体

自主防災会による安否確認やレンタカーの相乗り避難に取り組んでいただき「理解が深まった」、「多少深まった」を合わせると約8割でした。また、訓練の内容が役に立ったかについても8割を超える方が「十分に役立つ」、「一部役立つ」内容であったということでした。地域の皆さんが真剣に訓練に取り組んでいただいたことの表れと思います。

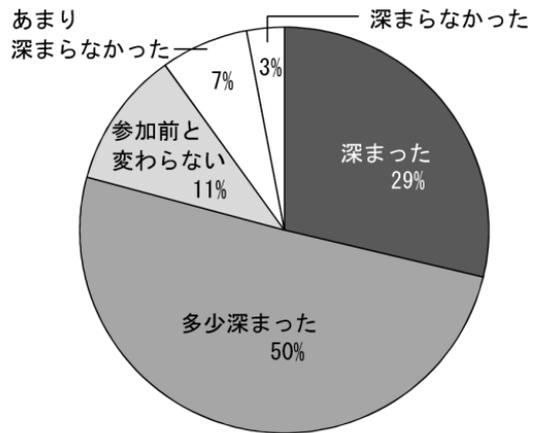
今回の住民避難訓練については、地域防災の初動活動、住民の避難行の確認、認識に焦点を絞った訓練内容といたしました。訓練内容が地域のお役に立つことができたのであれば幸いです。

なお、自由回答では、様々な御意見を頂戴いたしました。今回の訓練内容に満足するのではなく、いただいた御意見などを参考に今後の訓練に向けていきたいと考えます。

「訓練の感想等（自由記述）」の一部

- ・良い訓練になったと思う。自家用車で避難することは必要であり良かった。
- ・自家用車避難の方法について、町内会でしっかり話し合い、訓練が必要になると感じた。
- ・船舶の利用を考慮しても良いのではないか。
- ・避難するしないの判断に迷う。はっきり知らせて欲しい。
- ・実際に避難する場所の地図を配るなど再徹底する必要があると感じた。
- ・今回の訓練を通じ、持ち物等がまとめられそうで良かった。
- ・バスの中で待っている間、もっと情報が欲しかった。バスの先導車が必要と感じた。
- ・交通渋滞の状況が不明。車の渋滞が心配。全市一斉の訓練を願う(特に道路状況が心配)
- ・(地震被害、風向き等)避難経路の状況、発電所の状況が不明。状況を発信し続けるシステムは存在するのか。
- ・(津波など)複合災害に対する避難計画が策定されていない。季節や訓練時間帯を変えて実施すべき。
- ・訓練のための訓練から脱皮できない。訓練と事故発生とは大違いである。
- ・いくら訓練しても原子力災害時の避難は十分とは思えない。訓練は手順を踏んできちんと継続すべき。
- ・どの部署が訓練の主催なのか不明。知事と同様に事前にシナリオがない方が良い。
- ・訓練といえども事前の避難方法が全く知らされていなかった。訓練を重ねることで、いろいろな状況での避難が可能となる。最終的にどんな事態でも避難できる心構えができるので、まずは全てを承知での避難訓練が必要。
- ・避難先での受付時の流れが良くなかった。
- ・避難訓練が必要ないように発電所では十分な対応を願う。 など

問6-1 避難実施手順に関する理解が深まったか



問6-2 訓練は今後役に立つ内容だったと感じるか

